



手をつなぐとも

等友

S
60
i
0
i
生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
浄土真宗
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉馨

平成24年4月
第97号

本堂の畳を新調しました
(ご門徒の金網畳店さんのご協力)

時
つねに
時は金なり
なんていうけれどね
時は一日ちたよ
いまという
この時は
自分の一生の中の
一瞬間だから
みつを

相田みつを心の詩 アノネ」より

ダイヤモンド社

住職から一言

※三月十七日は等覚寺坊守の命日です。
一周忌法要は身内で無事お勤めいたしました。一周忌に当たり、住職と母が一筆とりましたので掲載させていただきます。

坊守について

頭の中に浮かぶのは、自分が会社勤めに出ていた間、坊守はご門徒（みなさん）の事、家事全般を守ってくれた有難さです。それを思うといつも合掌念仏しています。

いつも明るく、その日に接したご門徒の近況やお話を当方に伝えてくれたおかげでみなさんとの距離も近く感じられたものでした。

愚痴を言わず不平をもらさず、すべては自分の仏様へのご恩返しなのだといった坊守の姿を見て、当方もいつも反省させられていた記憶も想いおこされます。

しみじみその一生を考えて、よく支えてくれた恩を感じつつここに合掌し、文を結びます。



坊守 一周忌

私が寺に生まれ、母について想うこと

荒川 園子

私が幼かった頃、住職である父は会社務めをしながら寺の仕事をしていた。当時寺の収入だけでは父母姉私が生活していくには余裕があまりなかったことから丸の内にある会社に勤めだしていた。そんな中母である坊守は、寺の事・ご門徒さんとの接待・寺の行事や法事の連絡・通夜葬儀の打合せなど、すべて一人でこなしていた。その上で町内会の仕事、私達の学校の行事等々をもこなし、忙しい・大変だ・疲れた」という言葉は母からは一度も聞いたことがなかったように思うし、私にも寺の仕事を手伝え」とか、毎日忙しく自分の

時間を持てないから、たまにはゆっくりしたい」ということも言われたことはなかった。

最後の寝たきりになった時 まだ意識はあった時、毎朝母に「おはよう」と声をかけに寝室に入っていくと あらら、寝坊しちゃったわ。ごめんなさいね、これから私が門を開けて庭を掃除するから、あなたここで寝てていいわよ」と。この時はもう体重も半分くらいになって立てる状態ではなかったのに、寺の仕事をしなければ、という母の寺に対する強い意識を目の当たりにし、とてもありがたい、優しい母だとつくづく感じた。

いつも母はみんなが喜ぶことが優先で、自分の事はひたすら後回し、でも不平不満はまったく言わなかった。つねにニコニコ笑っていた母。

今、自分が母と同じ立場に立ってみて、寺の仕事の多さ・寺を留守にできないつらさをいろいろと感じ、母の偉大さ・優しさがつくづく身にしみている。

若いころの勝手気ままに行動していた自分が、母に対して申し訳なかったな、と今になって頭が下がる。母のようには出来はしないけれど、少しずつ寺のため、ご門徒さんのために母を思い出しながら寺を守っていききたいと思う。

母との入れ替わり？で、長男と嫁に謙心というかわいい孫が生まれ、その上次男も二月末に結婚し、女っ気のなかった我が家に二人もかわいい気のつくいい嫁が来てくれて、住職はじめ、家族全員で皆さまに安心していただける寺にしていきたいと思っておりますので、あらためてよろしくお願ひします。

新年会

平成二十四年一月十五日に新年会を開催いたしました。

昨年一年間は大変なことが多々ありましたが、新たな年を迎えられた慶びを胸に、新年の法要を皆様と共に無事お勤めすることができました。

少しではありますが、写真と共にご紹介させていただきます。今回来られなかったみなさまも次回ぜひお気軽にご参加下さい。



みんなでくじ引き



宮原勉さん作のひょうたん
こちら景品(大人気！)

当日のお勤め後の法話もちよつとご紹介させていただきます。

昨年五月に生まれ八カ月となった謙心は日々できることが増えていくが、今年九十八歳となる住職は逆に減っていく。そこに命のあり方、姿そのものを見る。考えてみると生まれた瞬間に死は始まっている。

新年ということ、初詣に行かれた方も多いのではないか。先日、「いのちのふれあいゼミナール」の講師である田口さんか



住職もごあいさつ



法話の様子

ら伺った話をしたい。

明治神宮にはお正月の三が日に約三百万人もの方が初詣に来るといふ。多くの方はその年を無事に過ごせるようにと祈る。しかし単純計算で、そのうち少なくとも何万人かはその年に亡くなっているわけである。このことを神社に言うとは

東本願寺にお参りに来る人はどうなんだ?」と返された。東本願寺にお参りに来る人は何かを祈るわけではなく、その日お参りに来れたことを感謝しに来るのであり、そこが根本的に異なる」と答えたという。

この例え話は真宗の教えをわかりやすく表していると思う。だから初詣に今年のお願いにいっても本当の意味では救われない。いいことも悪いことも起こる人生・現実をそっくりそのまま受け止める

ことができるようになるのが本当の御利益ではないか。

話は変わるが、最近通夜葬儀の場で「清め塩」や「相箸 あいばし」について、なぜ真宗では行わないのかを説明するようになっている。それぞれは仏教を起源としたものではなく、古来から日本人が死を恐れ、「穢れ」として扱ってきたことによるものである。

この話への反響が大きいことに驚く。考えてみると自分自身が喪主を務めることになるのは、だいたい人生で2回のみ。知る機会が少ないわけだ。そういうことからこの説明は、改めて私たちが「死」をどう受け止めていくかを考える大事なきっかけとなるのではないかと思う。

いのちのふれあいゼミナール

以前からお知らせしておりました、

「いのちのふれあいゼミナール」が2月19日に近くの聞成寺にて開催されました。『いのちのふれあいゼミナール』とは、地域のお寺が合同で開催する聞法会です。今回は真宗大谷派僧侶であり、東京ボウズバー」会長も務められる田口弘さんを講師としてお招きいたしました。テレビ・新聞・ラジオなどで御存知の方も多いかと思えます。

田口さんは、視覚に障害を抱え、小さい頃からいじめにあい苦しみながらも真宗の教えと出遇い、救われた経験が平易な言葉を用いながらお話くださいました。等覚寺からは長村さん・村田さん・大関さんの三名がご出席くださいました。その後上野で行われた懇親会も楽しんで

いただけたようで嬉しかったです。

また次回もご案内いたしますので、どうぞお気軽にご参加下さい。 釋創龍

東日本大震災義捐金について

お寺の玄関先に設置しておりました義捐金箱のご報告です。

おかげさまでお寺からの分も含め43、627円集まりましたので、真宗大谷派東京教区災害ボランティア支援金へと寄付させていただきます。

最近ではメディアでもなかなか取り扱われず、現地のことばかりづらい状況ですが、なかなか復興が進んでいないというのがやはり現実のようです。等覚寺では引き続き支援していきたいと思っていますので今後も協力いただけましたら幸いです。

喪に服す？

今回は新年会の様子をご報告させていただきました。昨年坊守が亡くなり、今年も新年会やるの？なんて疑問もまわりからいただきましたが、いつも通り開催いたしました。その疑問の元はきっと「喪に服す」という習慣から来ているのでしょう。

「喪に服す」って今では当たり前のようになってきましたが、その由来ってご存知ですか？ 最近では家族を失った悲しみで慶事に参加するところではない、という理由も出ておりますが、この習慣は先ほども記載した通り、実は死を「穢れ けがれ」とする日本古来の宗教観から根付いているものなのです。親族が亡くなるとその家族も穢れる、その穢れが他の人に伝染しないように人々の集まりや慶事への出席を一定期間控えるべき、という考え方です。

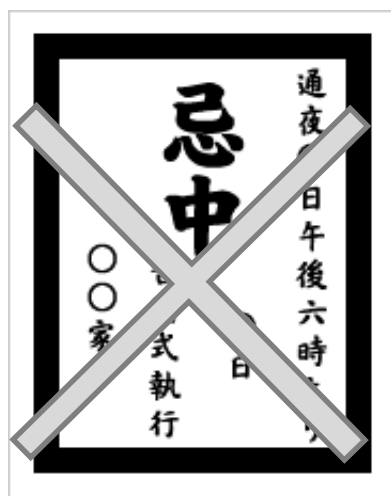
今まで親しく・お世話になった親族が、命を終えたとたんその身が穢れとなるなんて、なんと寂しい考え方でしょうか。

私たち浄土真宗の教えでは、命を終える和阿弥陀如来がお浄土へとお救いくださいます。このような難しい話を抜きにしても、私たちがいつまでもさまざまな行動を慎み・慶事へ参加せずに悲しみ続けている姿を、故人がお浄土からご覧になったらどう思われるでしょうか。まずは亡くなった方から最期に教えていただいた、命はかならず終りがあるという「限りある命」の教えを受け止め、今まで以上に一生懸命に日常を生きただけがきっとお浄土でお喜びになっただけなのではないでしょうか。



私個人も今年は年賀状をお断りすることなく、いつもどおりに新年を迎えられたという慶びと感謝を友人知人にも報告させていただきます。

※ただし、年賀状については一般的な常識やマナーにも関わってくることで、相手の方のことをよく考えて年賀状を出す出さないを決めるといいでしょう。基本的には今回の考え方であるというふうに覚えておいていただけると幸いです。



忌中札も
必要ありません

ご披露

等友へのご懇志

鈴木様 西村様 万代様 高木様 福原様
浅井様 加藤様 多田様 栗原様 小笠原様
高橋様
順不同)

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております。申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただきます（と思います）

編集後記



こんにちは、釋翔雲 弟・翔)です。お彼岸も終わり、やっと春の気配が見え隠れしてきましたが、みなさんお元気にお過ごしでしょうか。

日々の気温の差が激しく体調も崩しやすいですし、インフルエンザにも気をつけてくださいね。

そして春と言えば今度は花粉の季節です。これもキツイですよねえ。鼻がつまってしまうとお勤めにも関わってきますので、僕は飲み薬で対策しています。

最近は時間が経つのも早く、あれよあれよという間に夏がやってくるでしょう。そうすると今度はお盆です。例年通りお盆法要がごじますので、その時はまたお気軽に「ご参加ください」ね。



四月八日は花まつり
(お釈迦様の誕生日)

平成二十四年行事予定

七月十三日「

十六日

お盆

七月十五日(日)

盂蘭盆会法要

九月十九日「

二十五日

秋のお彼岸

十月二十八日(日)

報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、
お気軽に「ご参加ください」。

平成二十四年年回表

一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和四十一年
五十回忌	昭和三十八年
七十回忌	昭和十八年
百回忌	明治四十六年